

暗唱聖句:何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた。(使徒 28:31)

使徒言行録に記された、パウロの第2回伝道旅行以降の足跡から学んできたシリーズも最終回となります。パウロはついに、囚人と言う立場ながら念願のローマに辿り着きました。番兵付きの自宅軟禁という生活のため、完全な自由とは言えないものの、牢獄生活よりは遥かに伝道の業に励みやすかったでしょう。囚人という立場を嘆くのか、それでもローマで伝道ができることを喜ぶのか。スポットライトをどこに当てるかで事態の捉え方が変わることは、私たちの生活でもよくあります。パウロはもちろん、喜んで主に従う道を選びました。

当時、ローマにも多くのユダヤ人がいて、集会や礼拝の場所であったシナゴグが13あったと言われています。パウロが集めた「おもだったユダヤ人」とは、指導的立場にあった人たちであろうと考えられます。28章17-20節ではパウロが、自分は囚人としてこの地に来てはいるが、民や先祖の慣習に背くような人物ではない、とすることを必死に訴えています。囚人というだけで悪いレッテルを貼られかねないので、この弁明は当然です。

それに対する人々の反応は冷静で、自分たちはパウロに関して何の書面も受け取っていないし、悪い話も聞いていない。だからあなたの考えを直接聞きたい、と言うのです。パウロほど精力的に各地で伝道した人ならば、そうは言っても多少は噂が耳に入っていた可能性もありますし、それでなくても、目の前にいるパウロは鎖につながれた立場です。しかしあらゆる偏見を捨て、パウロの言葉を聞こうとした人々の姿には学ぶものがあります。

ただ、彼らが偏見を持たずにいられたのはパウロという「人物」に対してであり、その「教え」に対してはすでにネガティブな印象を持っていました。「この分派については、至るところで反対があることを耳にしているのです」という言葉は、これから話を聞かせてもらおうとする相手には、言う必要のない言葉です。しかし、反対者が多いことにより、彼らの心にはすでに壁ができていたのでしょうか。それを乗り越えるほどの教えなのかと、パウロを試している一面も否定できません。

「分派」という言葉が表す通り、今でこそ「キリスト教」は「ユダヤ教」と異なる信仰を持つ別宗教とされていますが、当時のユダヤ人にとってイエスさまと弟子たちの群れは異端のような存在でした。パウロは例によって、ユダヤ人が重んじる律法や預言書を大いに引用しながら「イエスについて説得しようとした(28:35)」とありますから、イエスさまが律法や預言書に反する方ではなく、むしろそれらを完成・成就させる方だと熱弁したのでしょう。それでも、パウロの言葉を受け入れたのは一部に留まりました。

ユダヤ人に対するパウロの言葉は辛辣です。体の一部として目や耳が機能していても、霊的には機能しておらず、福音が受け入れられない状態。私たちにも無関係ではありません。では私たちが常に本当の意味で開かれた目と耳を持ち、神さまに従う人生を歩むためにはどうすればいいのか。イエスさまは、「聖霊」が私たちを助けてくださる、と語ります。

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」（ヨハネ 14：16-17）

「わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさるはずである。」（ヨハネ 15：26）

私たち一人ひとりのもとには、聖霊が遣わされ、福音を語り続けています。それゆえに、私たちは聖書をただの書物、文学ではなく、神の御言葉として聞き、理解することが出来るのです。パウロの力強い歩みを見れば、聖霊の働きがいかに豊かなものであるかよく分かります。そしてそれは、つい人間的な感覚や価値観で縮こまりがちな私たちへの希望でもあります。「全く自由に何の妨げもなく」語り続けたパウロのように、鎖に繋がれようが、敵対者がいようが、私たちと聖霊の間を妨げられるものは、何もありません。聖霊なる神が今も私たちに語り続けて下さることへの喜びと期待を思い起こす時、この小さな私たちすらも、伝道者として立てられている恵みに気づき、励まされていくのです。

#### ● 分かち合い

・ノンクリスチャンの方が、キリスト教信仰に対して間違っただイメージを持っているな、と感じたことはありますか。またそれに対して、どのように答えていけるでしょうか。

・聖霊の語り掛けによって突き動かされた経験はありますか。ぜひ分かち合いましょう。



ショートメッセージは、教会ホームページから動画でも視聴できます。

左のQRコードを読み込むか、スマホ・PCからご覧の方は[こちら](#)をクリックしてください。

公開：6月2日（木）～